

・リバティ・アカデミー

1. 目的・目標

【現状（評価）】

専門的職業人の意識・要望を的確に把握し、激変する企業社会で十分に活躍できる職業能力を育成する継続的な教育プログラムと、高度職業社会の到来から、人間の存在や精神の在り方について体系的に学びたいという期待に応える教育プログラムを用意すべきとの認識にたつて、「総合的な生涯学習の実施環境」として、1999年4月にリバティ・アカデミーが設立された。設立当初の運営体制は、公開大学運営委員会とリバティ・アカデミー運営協議会による委員会体制で運営され、学内の一元化が図られておらず、大学として統一した生涯学習体制ではなかった。

2005年7月、教育、研究と並ぶ第三の機能である大学開放・社会貢献事業（生涯学習事業）の充実・発展を目指し、「明治大学リバティ・アカデミー規程」を制定し、学長をアカデミー長とする学内機関として運営体制が整備・強化された。

リバティ・アカデミーでは、本学教員がコーディネータとして「本学の教育・研究成果」を継続的・体系的な公開教育プログラムとして産業社会・地域社会に提供すると同時に、大学の保有する様々な知的資産とその環境を広く市民に開放することを通じて「開かれた大学」としての姿を追求している。また、本学学生及び卒業生に対し国家・公的資格試験のための学習を支援する活動を続け、卒業後の継続学習を支援することを目指している。

【改善方策】

公開講座は、各学部、人文科学・社会科学・科学技術研究所、博物館、就職事務部等で実施されているが、大学開放・社会貢献事業（生涯学習事業）を教育、研究と並ぶ第三の機能として位置付け、その主たる窓口となるべくリバティ・アカデミー規程が整備されたことにより学内生涯学習事業の一元化を促進し、本学の生涯学習・社会貢献事業の更なる発展を図る。

また、学生支援・地域連携のための各地区キャンパスへの積極的展開や、企業連携事業・委託研修等の受入れを積極的に推進し、一般社会人の継続学習と在学生・卒業生の資格取得や職業的能力向上を支援する魅力ある本学らしい内容をもって教育に取り組む。規模においても、拡大のみに重点を置くのではなく、本学らしい内容に則した適正規模を模索していく。一方、戦略的な広報活動によって受講生の増加に努め、同時に専任職員人件費を含む収支均衡・収益性の確保・向上に努める。

2. 生涯学習への対応

【現状（評価）】

リバティ・アカデミーは、本学の教員を中心とした講師陣により、2006年度は320講座（設置350講座）を開講し、20,002名の受講者があった。大学の知を広く開放するものとして「教養・文化講座」、高度職業人養成に向けて最新のビジネススキルを提供する「ビジネスプログラム」、学生の就職や資格取得を支援する「資格・実務・語学講座」、「明治大学・成田社会人大学」や「明治大学・飯田産業技術大学」、千代田区民の生涯学習を助成するバウチャー制度への参加、文部科学省・厚生労働省・経済産業省・東京国税局・千代田区・杉並区・和歌山県新宮市・鳥取県など国・地域自治体等との委嘱・委託・連携講座の実施、企業研修等の受託など生涯学習実施機関としての実績を積み上げてきており、大学開放・社会貢献に向けた幅広い講座展開を行っている。

また、2005年度から受講生の継続的な学習を支援し、受講成果を認証することを目的として、リバティ・アカデミー独自の称号を授与する修了制度を開始し、2006年度は121名に授与した。

さらに、2006年度は全学的協力体制を築き、生涯学習機関としての「質」の向上と体制強化を図るため、専門部会を設置し、また、「講座の開設及び開講基準」及び「講師任用基準」などの内規を制定し、制度の確立を図った。

【改善方策】

大学は、生涯学習社会の拠点としての役割が求められている。そのためには、都心に立地している優位性を最大限に生かし、質量とも本学らしい独自の体系（実践、参加型）をもって、多様なニーズに即応した展開を目指していく。また、生涯学習・社会貢献事業を積極的に推進するために、企業・団体、国・地方自治体等との連携事業の継続とともに、新たな事業展開を積極的に行っていく。学内においては、学生への支援の拡充とともに、本学全体の生涯学習事業の一元化・整備を促進し、学内

における生涯学習事業の主たる受け皿としての役割を果たすべく、より充実した内容と効率的な運営を行っていく。「明治大学リバティ・アカデミー規程」が制定され、大学の機関として整備された現在、評価制度の導入を検討し、全学的な協力体制のもとに質の確保にも努める。

3. 社会への貢献

(1) 社会との文化交流等のための教育システム

【現状（評価）】

千葉県成田市、長野県飯田市、和歌山県新宮市、鳥取県などの自治体との提携講座や地域・団体・企業等との共催・後援事業・講座を実施し、文化・歴史・自然・経済等に関わる講座の展開を通じて、地域社会や経済社会との交流、市民への知の還元を行うとともに、三鷹ネットワーク大学、秋葉原サテライトキャンパスにおいて、地域社会と密着した講座展開を行った。厚生労働省からの委託訓練講座、企業・団体からの寄附講座・受託研修も実施し、人材育成も行っている。また、英国ヨークセントジョンユニバーシティとの連携により、日本にいながらにして英国立大学の正規修士号が取得できるプログラムを開講するなど、社会・地域との連携・交流を図っている。

【改善方策】

大学の社会的使命を果たすために、今後も産業社会、地域社会との交流を積極的に推進していく。なお、学内各機関等とも連携を図り、社会貢献への主たる窓口としての機能を果していく。

(2) 公開講座の開設と市民の参加

【現状（評価）】

講座等の開設状況は、2006年度は全320講座（教養・文化講座62、ビジネスプログラム67、資格・実務講座54、語学講座69、特別企画講座20、オープン講座17、厚生労働省大学委託訓練8、文部科学省司書講習1、経済産業省委託事業1、受託研修7、その他14）、そして明治大学・成田社会人大学、eゼミナール13となっている。また、受講者総数は20,002名で、このうちの約8割が社会人である。

【改善方策】

受講生へのアンケート調査を全講座で実施し、次年度開設講座の指標としているが、生涯学習機能をより一層果たすために各種ニーズ調査を実施するとともに、専門部会での検討をふまえ、ニーズに則した講座企画を推進する。また、本学と協定を結ぶ各地域を含めて、地域社会との連携を更に深め、より多くの地域市民の方々への講座提供・知の還元を積極的に行っていく。

(3) 教育研究上の成果の市民への還元

【現状（評価）】

本学が長い歴史の中で培ってきた教育・研究の成果を基盤に、大学がもつ人材と施設・設備を社会に公開している。受講希望者に対しては、特に資格要件を設けず、生涯にわたって豊かな知的生活の実現、あるいは職業能力を高めようとする、あらゆる人々に門戸を開放し、広く学習機会を提供している。受講者は1999年設立時の2,081名から2006年度には20,002名と一学部以上の規模にまで達しており、教育研究上の成果を市民に還元することの一定の責務を果たしている。

また、文部科学省選定の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）関連講座の実施や千代田区、千葉県成田市、長野県飯田市、鳥取県、和歌山県新宮市等と連携した地場産業の育成、文化振興、地域社会のリーダーとなる人材育成などにおいても教育研究上の成果を還元している。

【改善方策】

本学の研究教育上の成果を還元することが、リバティ・アカデミーの目的でもあり、今後も本学の知的資産を活用し、市民や社会のニーズに適応した講座を開設する。大学近隣はもとより、遠隔地の市民への知の還元も視野に入れた展開を目指す。地域社会との連携については、従来の事業を継続するとともに、さらに、本学の教育・研究の優位性を活かした地域向け生涯学習プログラムの提供、講師派遣、IT技術を応用した遠隔講義等により市民の期待に応えていく。また、学部・大学院との連携を図り、教育研究上の成果の市民への還元を進めていく。

(4) 地方自治体等の政策形成への寄与

【現状（評価）】

2004年度の「地域産業活性化プロジェクト」の一環の箱根地域の活性化を始め、長野県飯田市とも連携し、ITを活用した展開により、地場産業関連講座を開設している。2005年度には鳥取県との連携による自治体職員向け講座及び地域活性・イメージアップに繋がる講座の実施、和歌山県那智勝浦町との連携による講座実施を行った。また、「地域経済連携支援講座」では、全国9市区町の首長による講座を実施し、地方経済活性化等の講座を実施した。2006年度は和歌山県新宮市との連携協力に関する協定書締結に基づき、新宮市民大学を開設した。

【改善方策】

今後も積極的に地方自治体と協力し、地域活性化への貢献、行政施策等への支援を果たしていく。また、大学近隣に限らず、広く全国を視野に入れた地方自治体との協力体制を築き、遠隔地においてはIT環境の積極的活用も検討していく。

4. 企業との連携

(1) 寄附講座の開設

【現状（評価）】

2002年度から継続して、大同生命保険(株)より寄附金を受入れ、「中小企業の経営革新セミナー」を開講した。また、2006年度には日本経営士会による寄附講座、三省堂書店との共催講座も実施した。

【改善方策】

今後とも継続と新規開拓に取り組む。

(2) 大学と大学以外の社会的組織体との連携

【現状（評価）】

- ア. NPO地域と協同の研究センターからの職員研修を受託し、中堅職員研修「コープマネジメントスクール」、幹部職員研修「コープカレッジ」を開講した。
- イ. 厚生労働省大学等委託訓練を受託し、「戦略マネジメント実践コース」等、全8コースを開講した。
- ウ. 明治大学・成田社会人大学において、成田市の生涯学習事業として市民向けに「緑地環境課程」「国際社会課程」「地域社会課程」の3コースを開講した。
- エ. 明治大学・飯田産業技術大学において、テレビ会議システムを活用した遠隔講義を実施した。
- オ. 鳥取県との連携講座「鳥取ー遺跡から読み解く歴史と文化」「トポス(場)と作品ー鳥取県ー」「鳥取フィールドワーク」を実施した。
- カ. 文部科学省委嘱の「図書館司書講習」を実施した。
- キ. 経済産業省委託の「製品の安全学」を実施した。
- ク. 国税局職員専門研修を実施した。
- ケ. 農林漁業信用基金職員研修を実施した。
- コ. 三幸製菓(株)からの営業社員研修を受託し、「マーケティングの基礎研修」を実施した。

【改善方策】

今後とも継続と新規開拓に取り組む。また、本学が協定を結ぶ自治体、行政、NPO団体等との連携を更に深めていく。